

大雪旭岳源水の水源地に新工場

コープさつぽろ、ミネラルウォーター事業に参入

全道107店舗を展開するコープさつぽろが、大雪山旭岳源水の天然水を「COOPさつぽろ」ブランドの新たなミネラルウォーターとして販売参入することになりました。7月にも旭岳源水の湧水源近くにボトリング工場を建設着工、早ければ今年12月から製造・ボトリング開始の予定。「平成の名水100選」に選ばれたミネラル豊富な自慢の天然水がコープさつぽろブランドで全国に向けて本格販売開始になります。

大雪旭岳源水のボトリング商品化に向けた計画は、コープさつぽろを筆頭株主とする事業主体として、(株)大雪水資源保全センター(東川町、資本金5千万円、吉田洋一社長)を今年3月26日に設立。具体化に向けて関係者間で協議を重ねてきました。

出資者と出資比率は、生活協同組合コープさつぽろ(札幌、大見英明理事長)4千万円、東川町(松岡市郎町長)、東川町農協(板谷重徳組合長)各400万円、(株)東洋実業(札幌、横田正弘社長)200万円。社長に就任した吉田氏はコープさつぽろの執行役員。

「2リットルボトル換算で1本あたり0.5円を大雪の自然を守るために東川町に寄付したい。年間では700万円程度となる見込み」と大雪山国立公園の自然環境保護への貢献を表明しました。

松岡町長は「寄付金を原資に、大

雪山国立公園の独自の自然保護活動に役立てます」と話しました。

月産千300万本、12月から本格生産へ

新ボトリング工場の建設地は、大雪旭岳源水に近い忠別湖遊水広場(ノカナシ)の一角。日量6千600立方メートルの天然ミネラル水が自噴している旭岳源水の湧水源から約700メートル下流。大雪旭岳源水の取水口が整備されている旭岳源水公園の近くです。

新会社の同センターが町有地約6千800平方メートルを買い上げ、事業費約7億円で鉄骨造り一部2階建て約千800平方メートルのボトリング工場を建設します。

水質の良さを損なわないように加熱殺菌処理しない無菌充填方式を採用します。0.01ミクロンの極薄UF膜ろ過方式で今年12月から月産

千300万本(2リットル入り換算)を生産する予定です。

大雪旭岳源水は、環境省「平成の名水100選」(平成8年)に選ばれた名水。

pH値7.4、硬度94、弱アルカリ性の中硬水で、1リットル中のカルシウム含有量は22ミリグラム、マグネシウム含有量は9ミリグラム、カリウム含有量は4ミリグラムなどと天然ミネラルイオンのバランスが良い水です(今年6月採水、日本衛生(株)検査)。

藤田絃一郎東京医科歯科大名誉教授によると「抗酸化力が高く、飲用に適して非常に良い」(2008年12月の来町時の講演)とお墨付きの健康水です。

コープさつぽろが直接水の生産、販売事業に進出するのは初めて。国内市場ばかりでなく、台湾、東南アジア方面のマーケットも視野に検討しています。



忠別湖畔遊水広場最東端部の工場建設予定地(中央右部左側に現「大雪旭岳源水」ペットボトル商品の水を取水するための取水口が見えています)



新ボトリング工場の完成予想図